

東京外国語大学 2014年度秋学期 金曜日 5 限目

教員名：Hermann Gottschewski

連絡先：gottschewski アット fusehime.c.u-tokyo.ac.jp

科目名：総合文化研究入門A

テーマ：西洋音楽の文化史—ドイツの音楽を中心に

授業用のホームページ(これから授業関係の資料をそこにアップします)

<http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/~Gottschewski/gaidai/2013/index.htm>

注:このアドレスを入力する時に大文字と小文字を区別する必要があります

「~」の入力が難しい場合、以下の順序でも授業のページに入れます。

<http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/gottschewski/>

このページにアクセスして

→一番上の「授業」をクリック

→2014年度担当講義 冬学期の一番下の東京外国語大学の授業の右にある「授業のページへ」をクリック。

授業の目的

音楽史を書く人は、史実の発掘と従来の歴史認識の確認から音楽史の記述まで、どういう問題意識を持ち、どの様な研究をしているのだろうか。この授業はただ一つの音楽史を語るのではなく、さまざまな音楽史の可能性を考えることを目標としている。「音楽は文化の現象であり、歴史の中で解釈しなければならない」というのはこの授業の基本的な主張である。従って音楽史はただ音楽作品を時間的な順番に並べたものではない。それぞれの時代に音楽の社会的な位置、そして音楽を作ったり、楽しんだり、教えたり習ったりする人々の様子に変化する。音楽史では曲そのものよりも、その曲はどの様に演奏され、どの様に利用され、どの様に解釈されたかの方が問題となることもしばしばある。この授業で「ドイツの音楽を中心に」と主題を限定したのは便宜のためである。そういう限定がなければテーマがあまりにも広過ぎて、十五回の授業で扱いきれないからである。ただし授業の話はドイツの音楽文化に限定されるのではなく、ドイツの音楽が世界音楽の中でどういう位置を持ち、どの様な外国音楽が取り入れられ、そしてドイツ音楽がどの様に（日本を含めて）外国で受容されたかについても焦点を当てる。つまりこの授業での「ドイツの音楽」は必ずしも「ドイツ文化の中の音楽」に限るものではなく、「ドイツに起源を持つ、世界の文化の中の音楽」という意味である。この議論の傍らにドイツの文化史・社会史・政治史も多く扱われることになる。

授業の概要

それぞれの授業では一つの「観点」を中心にし、多様な音楽史の種類を紹介するのはこの授業の基本的な考え方である。できる限り授業の中で代表的な作品を紹介し、それを鑑賞する時間も設け、歌曲を扱うところで皆で歌う場合もある。それぞれの授業の「観点」は授業の焦点が徐々に古い時代から新しい時代へ進むように並べられているが、多くの観点が長い歴史への広い視野を広げるので、究極的に言えば毎回音楽史全体を扱うと言うこともできる。

勉強する方法

各授業で次回の授業の資料を出すのでそれを予習してから授業を受けて下さい。万一授業を欠

席した場合にはできる限り資料を友だちから手に入れて下さい。それが不可能な場合はこのホームページから資料を自分でダウンロードして印刷して下さい。ただし著作権の都合でネットに出せない資料もあります。

最新データが表示されない場合は一度リフレッシュ（再読み込み）して見てください

スケジュール

- 注：「休講」となっている11月7日は、最後の授業に続けて6限で月中のどこかの金曜6限の時間に補講を行う予定です。それによって後半では日にちとテーマが多少ずれることがあります。

2014年10月3日

- ガイダンス・西洋音楽史の主な時代区分の紹介
[授業資料](#)

2014年10月10日

- 西洋音楽の記譜法の発展（中世音楽を中心に）
授業資料 [HTML](#) [PDF](#) [ワード \(doc\)](#)

2014年10月17日

- 「協和」、「調性」と「音階」に関わる歴史的発展（古代から18世紀まで）

2014年10月24日

- 和声論から調性の危機まで（18～19世紀を中心に）

2014年10月31日

- 宗教改革以後の賛美歌とその文化的な意義（16世紀からバッハの時代までを中心に）

2014年11月7日 休講

2014年11月14日

- 音楽と舞台（1600年前後のオペラの発展を中心に）

2014年11月28日

- ジャンルを中心とする音楽史（アリアを中心に）

2014年12月5日

- 「作曲家」がなぜ音楽史の中心人物となったか（19世紀のベートーヴェン受容を中心に）

2014年12月12日

- 歴史的な音楽美学的論争（19世紀の「絶対音楽」概念を中心に）

2014年12月19日

- 音楽の自動再生 1（自動楽器を中心に）

2014年12月26日

- 音楽の自動再生 2（録音技術からデジタル音楽まで）

2015年1月23日

- 民俗音楽と民族意識（18世紀の民謡論から19世紀の民族運動まで）

2015年1月30日

- 国境を越える声楽（韻律と翻訳の問題を中心に）

2015年2月6日

- 日本の西洋音楽受容と近代音楽の発展（近代を中心に）

2015年2月6日 6限（補講）

（5限に続いて授業を行います。）

- まとめ・期末試験についての案内
- 試験

リンク

- [ゴチェフスキ研究室のホームページ](#)